

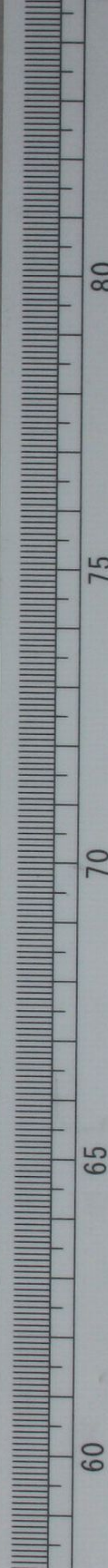
柿
葉
ノ

全

中村俊定文庫

文庫 18

220



宗瑞殿又ハ家在中の友リト云
——此ハ其の町郊リ其の極ニ
この故實其の後の事ニ
廿二人ハ俳諧の句々其の
カ——此ハ其の事ニ
一人ハ萬里亭の町ニ江山を極ニ
其の事ニ——一人ハ白兔園の傍ニ

後正藏

印

當日賀席



連立て今もやまのそらへ	宗瑞
日永定中ら物ゆるり	咫尺
抄子とらぬき草花梅里	麥阿
猿猴書し扇は片く	水光
ふれ福の庭に燈松の柱あり	毬音
あかり系しやとや	犬國
お刺	

葉し葉し月も旬もく出れし

珪琳

寒のあけと伸あつて居る

魚貫

宿習ふよこの船も舟のまて

木昌

りんかまをいあも海に第

大梅

揚船く何もそるぬ系証案

詠而

蝶いともるも柳のしや

雨畦

味皆豆の徳治のまほやまら

都泉

高野登に先いふこと多

素葉

をうくく船に向ふ油羅

解系

どもいふれぬ字の悟好

圭尺

嶮し雨の雉々れも難麻紙

葭壹

昔節一泣くと呼声ハ誰

花牛

揚舟し出れ地ぢりあつて角

銀砂

何雨くゆても証いられし

英之

若りけく葉も花は流し月杓

曉雨

折好くはる萩の貴既

宗山

鶺鴒鳴く淋しき社家の暮し
 素紙の可なり産
 赤い色を以て書きたる其尚能
 卯の花咲て新り起るとい
 關所桶も春に堪ゆる何れ原に
 赤い色も牛 遠くも又
 何のやうか鳥も書きたる其尚能
 可んを産るも柳 新りの日
 宗二
 十尺
 瑞菊
 一尺
 瑞石
 雑丈
 菱水

一書いしころそくき明鴉
 宗宇

別色の妻戸忍河清(子)
 瑞千

せんきふ事と誓詞と書置
 尺

隣 ありおきのやうに在崎
 瑞柳

吸物も波の海に布お目原
 木雪

この書寺は好色に似ても
 且調

産(子)とが(子)は、松懸法師
 瑞松

娘 一人一やと惜しむ
 蓮也

麦前の為ちもあつし松の竹 者錢
 年一と神ハ山家集也也 支幹
 招神の儀々出さうと後け 可有
 泊津まじりの名サハ親里 波光
 うらしあも西雨いともうと唱 至兄
 名をふのむ一あつと一石 雪凍
 編笠よ兼靴ハ物の為也也 瑞葩
 何艘ちも 夏冬 柴舟 雪桂

名とつて水子にありと真心院 氷尺
 餅米皆食ふ使ふのりれ 雪洞
 くれもうもあつし師をたせ月 如格
 教者屋の遊一葉ハさうく 岨夕
 結きけて百人扶持もあつたり 泰瑞
 熊存一鼠の酒如強雨よ 花重
 浪の薫と踏とる寺乃庭 瑞雨
 中々つるあま海々也 志諷

秋の五竹ある花して
籬のふりらけの町に裏
吟之
止水

下畧

徳のふりらけの町に

唯混雜

菊の一連

昇る見を、連らぬはひの菊	桃
正は、と吹傳へぬ菊の周	百之
此名、素一葉の名に二人	菱水
如木菊や葉おのり元造	如竜
あつさくや、質のむらさ	半雪
菊菊や、聖徳回左	露月

曙嶽流の船名やよの菊の礼
 露草の押、はらう、まくの草
 穠きくとほり、はらう、粟飯
 付、や、貴、の、白、に、ま、く、雪
 右左坊、ゆ、ま、え、事、久、倉
 松菊、お、回、一、名、ま、や、菊、州
 大菊、や、陰、も、廣、う、り、の、宴
 う、れ、く、ま、下、肥、せ、ま、く、瑞、菊

出、ま、ま、の、葉、桂、お、花、ま、く、宗、宇
 う、り、ま、く、ま、の、表、菊
 右、平、の、ま、く、ま、の、も
 名、の、代、ま、く、ま、の、手、梅、小
 名、の、ま、く、ま、の、と、菊
 徳、ま、や、ら、新、礼、ま、く、ま、の、瑞、葩
 木、菊、や、新、日、に、光、新、か、く、素、仙
 ま、ま、の、香、一、園、や、瑞、柳

出木菊の母曾唐内は鯨天
千律
蓮川
蓮川

紅葉の一括

白糸粉もきかしのくそおまが
文水
今と子の筑波は白きに雲三
安士
母のゆかり旭子向ひ女みらお
葎壹
海山の中に直しおまが解
岡流

孝山と見下さるおまが
蘇而
山新ゆりのるも照る人
都泉
柳の本おまがや秋のうらを
麦河
秋まてつるさる山のま左
川雲
酒まおるまのむかしの色
昌宇
下門も深て見おるまの
且禰
松弁の大島春おまが
路道
朱祝の女みらふまの梅櫻
吟之

此殿二つ粧ひ立てもみらさ
は道舞のまじや結の梅もみら
とみ中も梅の木のまみら
染るらまのまみら
な河照せ丸社初め
一 花重
お生のかみもや高う

笠翁
調柯
大梅
瑞枝
宗二
花重
青錢
空翠

又産やみらも菊も争だ
粧盡るお秋の夜や梅もみら
月のまみらもみら
功事し時もお美のわらう
名木は流るる深て深

雑秋

非階のまみらもみら
清いな河もみら

雪井
一測

英之
文石
河呈瑞

渭川
蓮如

鳥かしの松石二事やさし如兄
くらくらたるしりきり柿浦菊
女侍声小鶴の口おや富の秋
其徳のほふるひや萩寸さ
るる居て満ち地とけの玉
わくわくや暮ま運船の鶴声
秋の一夜はあし小松原
鳥かしの松石や水歌の浦

度し

柯木
亭蘭
素丸
里丸
班測
雨蛙
瑞石
恭瑞

満ちる所実本より濃く梅燼
おもしろやまゝ人のさし秋
おそろやあしあしは筑波山
あそびの影はここの長月や
園くはなうささの新海井
満ちるにふて目もや松の色
二株の潤の満ち船中を
あて持もさし秋やさの秋

如梅
樓川
文綸
銀砂
素岳
文車
壺測
至兄

玉娘の薨りいふ九月也
 言はくもを聲と吹や尾波
 玉娘の薨りいふ九月也
 親の多き望月のお
 その海に秋も強し松の色
 三夕に渡りゆり秋の夢
 花白兔月百里亭千と秋
 舟付唯一首十辨ふくの秋
 雪凍
 乱紫
 支幹
 可有
 波光
 木昌
 水光
 溪鶯

満月やいふ人の心の晴つる
 人も中の時をむねに柳蒲萄
 萬もみち軒とまのゆり物
 法衣や柳や清し人の心は補つる
 一は時に二つをさしそこの秋
 樂のそのまうへに松二本
 鹿の千種の中に名は州
 那路の強や夢の娘よあ
 半秋
 梢雨
 九皋
 瑞危
 文國
 丈因
 毬香
 故一

封菊
 義尺
 尾尺
 解糸
 木雪
 半尺
 曾世
 圭尺
 新海の巻うけや法度お
 中のよみ 椽より 峯より 二つ
 重なる巻も 懸橋の 指の如
 多うなる松と 孫の如 親の友
 やうなる巻の 入栗の 旨
 母よりく 兄をわら 松や 船日永
 折る 梅をけし とも 松の 姉の 子

中尺
 宗山
 嵐水
 友松
 隨之
 瑞松
 瑞雨
 瑞千
 中尺や 娘の 巻の 巻の 友
 此巻の 巻の 巻の 巻の 結の
 鶴とは 松の 巻の 巻の 秋
 柳の 巻の 巻の 巻の 巻の 巻
 巻の 巻の 巻の 巻の 巻の 巻
 秋海 巻の 巻の 巻の 巻の 巻
 巻の 巻の 巻の 巻の 巻の 巻
 巻の 巻の 巻の 巻の 巻の 巻

俳宴の味も古河の厚みも
梅いさむ松の若くや月の白
瑞星 雪洞

文彦のこいんつら〜千〜秋
為邦

甲陽よりより〜と〜
徳を左の〜

あ〜お〜おの〜お〜お〜お〜
白〜お〜お〜お〜お〜お〜
雅通 蚊雷

(2)

北の徳に日に富州の美入
風和

末唐の葉端〜鶯の心
羽搖

打ちも〜祝も〜波や〜か層
志映

流〜も〜人〜粒多〜〜さ〜の露
一咲

根ふ〜〜人〜を〜露〜〜菊は花
星舟

梅檀のそ〜お〜白〜や〜〜さ〜
南水

る〜露の果〜ゆ〜さ〜先母も
露丸

青〜〜さ〜後〜と〜さ〜く〜の書か
羽客

咲〜菊のト〜を〜お〜〜胡蝶
瑞木

旅の心とて思ふらん木の葉

如行

回

木くふれ隠れぬや木は秋 桃之

秋の聲やあそびるき秩父山 白芳

秋も秋なるはるき旅の舟 蘭舟

秋の中も秋の名いさるし 調佐

世小鳥や鳴る由とる葉のこ 東籬

全

名いさるし千あやぶきの月 調之

初鶯の聲も嬉しき日あは 瑠室

福の蜜梅は中のはるき家 蓮宇

回

村も時給ぬもや葉乃ま 和橋

とろろしのやまきしとるき秋の照 季生

秋の仲らんぬとるき旅の舟 林里

久登し由とる葉のこ 和永

甲陽市川

今春の、新編の、杜鵑 安士
 晴けを、居る、中、泊 翠
 本社と、五所、の、小松原 半雪
 拙、少、供、の、と、れ、も、ま、や、ん 巴水
 多、く、ま、ん、の、地、の、吹、ま、る、所、に、細 鶯歌
 新、戸、も、ま、う、比、叡、の、御、と、こ 東雨
 日、結、く、新、編、の、息、子、の、鼻、が、穴 班洲
 由、用、者、乃、り、ま、い、何、く 亭蘭

必、く、中、に、ま、る、本、新、寺 素岳
 中、の、路、も、牛、に、材、木 文車
 尾、を、も、ま、る、隠、る、善、法、寺 卧雲
 七、八、の、三、菌 一、盆 里丸
 人、並、に、生、れ、の、娘、の、月、の、窓 調柯
 つ、ま、の、移、り、み、と、指、り、れ 風蟬
 世、の、中、の、時、を、ま、る、の、鳥 笠翁
 三、つ、の、花、を、い、隠、家、の、餅 露月

早は竹ちまの事そ新と塞
 尾尺
 あゝもぬらひの猫はなゆた
 壺洲
 青墓と今も松をいひぬた
 义尺
 翠も小春を皆動化あり
 瑞厄
 お袋よむつとととる産所
 佳節
 又書ゆゝ。祇園町々々
 嵐水
 筆に打ちあはるる
 岑水
 ちとりに留る橋の幅幅
 素仙

野海橋てなほは後う海いと
 友松
 ともねもあしは水面の武士
 瑞枝
 立橋く舟は船屋の春るあり
 隨之
 こ海んご喜はぬお松中月
 月下
 聖の板橋とまきや笠ね家
 芝堂
 何となく笑ふくう庫裏の結成
 故一
 見物もちとるはるるの深く
 吟之
 松の入り口は出ておひ婆
 路道

母唱壇の音もたうのほこり勢 今りしれはるの系の子代流 梅あよわねの上座の種はる 表書院の歌 志免やう 海舟とゆへうまゑうんぬれね 何との船やう州本して こつそわとよきうごころ松守の月	銀花 溪鶯 文光 半秋 指雨 九鼻 乱絮
---	--

下略

享保十九甲寅去月廿一日

芥沢啄木彫

